

令和5年度 学校評価報告書(様式例)

1 今年度の重点目標

多様性の理解に基づく 共生的な態度の育成(人を大切にする子)・主体的な態度の育成(自分で考えて行動する子)

2 自己評価(今年度の重点目標, 重点方策, 「4つのC」の取組の重点等に対する自己評価)

児童の調査項目の多くが80%から90%の高評価であった。特に挨拶や返事、【ありがとう】を自分からいうことができるの項目が高いのは、日ごろから指導し、児童が実践してくれた成果だと考える。一方、【進んで読書したり、運動したり】することを苦手としている児童がやや多く見られる。教職員の指導に従い学習を進めるだけでなく、【自ら進んで学習に取り組む姿勢】を育成したい。

また、調査結果から相談できる先生や方法がわからず、悩みを抱え込んでいる児童がいることが予想される。教職員が子供たちに向き合う時間確保のために、来年度は日課表の一部変更を予定している。【相談体制のさらなる充実】、そして教育活動全体を通して【自分で考えて行動する子】を学校全体で育成していきたい。

3 学校関係者評価【評価日 令和6年2月26日 評価者 学校運営協議会委員】

【多様な学習の場(挑戦の場)の提供、児童の安心・安全・体力向上に向けた教育活動・自分の考えや思いを伝える力・地域と一体となった学校づくり】は、昨年度を上回る結果であった。今年度は、保護者・地域の協力を得た学習、異学年交流を積極的に実施し、保護者の方にご覧いただく機会が増えたことが高評価につながったものとする。半面、【相談体制、家庭学習の取組】など、改善の余地がある項目もある。今年度も目指す児童像を①「人を大切にする子」②「自分で考えて行動する子」とし、学校全体で教育活動に取り組んだ。昨年度同様①については、おおむね良い評価だったが、②については、児童の評価と比べるとまだまだ課題が見られる。

来年度はさらに具体的な手立てを講じ、保護者・地域の協力を得ながら、教育課程全体を通して、【自分で考えて行動する子】を育成していきたい。

4 次年度に向けての改善方策

保護者、児童いずれも全体としては、おおむね80%以上の高評価であった。新型コロナが5類となり、昨年度以上に【挑戦、経験の場をつくり、生かして認めて育てよう】をスローガンに多様な学習の場(挑戦の場)を提供したことから子供たちの成長を感じていただくことができた。

また、児童からの評価で【授業でわかる・できる】の項目の数値が高くなったのは、【授業で勝負できる教員】を目指し、校内研究の充実を図ってきた成果と考える。加えて、4年目を迎えたコミュニティ・スクールへの理解が深まったことも感じ取ることができた。

来年度以降も保護者・地域とともにより良い学校づくりを目指す。

☆添付書類 ①自己評価に関する記録 ②学校関係者評価に関する記録

*自己評価及び学校関係者評価を実施した場合には、自己評価の結果を踏まえての学校関係者評価であることから、双方の結果を一つの報告書にまとめることがのぞましい。